基本目標① 子どもと親と地域が共に育つまちをつくります

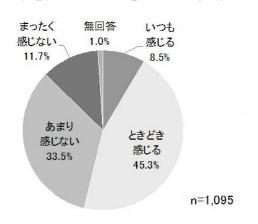
方向性(1) 親同士のつながりと子育て力の育成

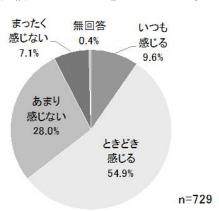
現状と課題

子どもが自分自身や他者に信頼感をもち、また、社会の中で生きていくために必要な 生活習慣や判断力を身に付けていくうえで、もっとも基本となるのは親の愛情や家庭で のしつけ・教育です。

核家族化や地域のつながりの希薄化等により、家庭の子育て力の低下が指摘されています。また、平成28年度調査結果において、子育てに自信がもてないと感じる方が多くいます。親同士の交流を促進し、互いに支え合うしくみをつくることにより、親が親になる喜びを実感するとともに、親や家庭が本来もつ基本的な力を発揮できるようにしていく必要があります。

<子育てに自信がもてないと感じること:乳幼児> <子育てに自信がもてないと感じること:小学生>





資料:「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」(平成29年2月)

- 先輩ママ・パパの体験をこれから親になる人に伝える取組や、子どもの年齢やテーマ(食事・遊び・運動等)による講座やイベントの開催をきっかけとして、保護者同士の自主的なグループの育成・活動支援等を通じて、保護者同士のつながりや支え合いを促進します。
- ■子どもとともに親も成長していくことができるよう、親としての心構えや子育てについて学ぶことのできる機会の充実を図ります。妊娠中から子どもの成長過程に応じて、継続的に学ぶことのできるプログラムの展開をめざし、関係機関の連携・協働による講座や交流事業等を開催していきます。

方向性(3) 子育て家庭への支援サービスの充実

現状と課題

すべての子育て家庭が利用できる子育て支援サービスとして、区は子育て安心ステーション事業や子育てひろば事業をはじめとするさまざまなサービスの充実を図ってきました。

平成 28 年度調査結果からは、定期的な教育・保育事業を利用していない方で、子育てに不安や孤独を感じる方が多くなっており、在宅で子育てをしている保護者への子育て支援を充実させる必要があります。

	全 体 (n= 1 ,095)	6か月未満 (n=172)	6か月 ~1 歳 未満(n=116)	1歳 (n=191)	2歳 (n= 1 76)	3歳 (n=151)	4歳 (n= 144)	5歳 (n= 1 29)
合 計 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
幼稚園	27.0	18.0	14.7	24.1	28.4	30.5	39.6	34.9
幼稚園の預かり保育	3.6	1.2	1.7	2.1	6.3	6.0	3.5	4.7
認可保育所	55.0	65.7	68.1	62.3	49.4	49.0	45.1	44.2
認定こども園	5.8	3.5	5.2	3.1	7.4	8.6	5.6	7.8
小規模認可保育所	0.3			1.0	0.6			
家庭的保育事業(保育ママ)	0.1		0.9					
事業所 内 保育所	0.4	0.6	0.9		0.6	0.7		
認証保育所	1.8	3.5	2.6	1.6	0.6	0.7		3.1
認可外保育所	0.3				0.6	0.7		0.8
定期利用保育	0.9	1.7	1.7	0.5	0.6	0.7	0.7	
居宅訪問型保育	0.2			0.5	0.6			
すみだ子育て支援ネット「はぐ(Hug)」(墨田区訪問型保育支援事業)	0.3	0.6	0.9			0.7		
すみだファミリー・サポート・センター	0.5			1.0		0.7	0.7	0.8
その他	0.5		0.9	0.5	1.1		0.7	0.8
無回答	3.5	5.2	2.6	3.1	4.0	2.0	4.2	3.1

< 利用したい子育てサービス >

資料:「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」(平成29年2月)

- 子育てを応援するサービスのメニュー・量を拡充し、利用しやすくすることにより、 親の育児不安や負担を軽減・解消し、すべての子育て家庭が地域で安心して子育て をすることができるようにしていきます。
- 特に子育てひろばは、乳幼児期の子育て家庭を支える地域の拠点であり、両国・文 花子育てひろば、児童館のほか、認定こども園に子育てひろば(地域子育て支援拠 点)を整備するとともに地域で自主的に設置する「ひろば」への支援も検討します。
- 子育てひろばが親子にとって安心して過ごせる居場所となるよう、利用者の主体的な参加を支援し、一緒に居場所づくりを進める環境をつくります。

方向性(3) 子どもの豊かな育ちを育む場・機会の充実

現状と課題

保護者が就労している家庭の子ども等の放課後の生活の場となり、子どもの育ちを支援する学童クラブは在籍数が年々増加しており、全児童数に占める登録率は平成29年度に17.2%となっています。それに伴い、学童クラブの箇所数と定員数も増えていますが、待機児童数はここ数年で増加している状況にあります。平成27年度から学童クラブの制度上の対象が高学年まで拡大されたことから、学童クラブの実施体制の整備と、高学年の居場所の確保が課題となっています。また、「放課後子ども総合プラン」に基づく放課後子ども教室と学童クラブの連携も必要です。

平成 28 年度調査結果によると、子どもの居場所や遊び場に対する保護者の期待は依然として高く、安全な居場所・遊び場を要望する意見が多くなっています。地域で自由に遊べる空間と子ども同士の触れ合いが少なく、遊び体験が減少している中、児童館等の地域施設、学校、地域、団体等が連携・協働し、子どもが遊びや体験活動等を通じて豊かに育つことのできる環境と、児童の健全育成が求められます。

すみだで生まれ育つ子どもたちが、次代を担う人材として成長するためには、健全な 青少年育成も大切です。そのためには、中学生や高校生に対する育ちの場と機会を創出 し、自立した大人へ成長できる支援も必要となります。

- 地域の中で、子どもたちへ遊びの場を提供し、自主性や社会性、人間性を身に付けるとともに、安全で安心な放課後の居場所として、児童館の内容の充実と放課後子ども教室の拡充を図ります。また、子どもの育ちを支援する地域の拠点として、小学生と中高生等の異世代間の交流をはじめ、児童館の機能を強化するとともに、放課後子ども総合プランに基づき、放課後子ども教室と学童クラブの連携を推進していきます。
- 学童クラブについては、希望する人が利用できるよう、地域ごとのニーズに応じて、 民間ビルの活用等により実施体制を確保していきます。また、学童クラブ間の交流・連携、職員研修等を通じて、質の確保・向上を図ります。
- 子どもや保護者の参画の下、子どもたちがのびのびと遊ぶことのできる、魅力ある遊び場、公園の整備を促進するとともに、地域の関係機関が連携・協働して、多様な自然体験・社会体験活動、交流活動ができる場・機会づくりを進めます。
- 小中学生へのリーダー講習会や研修会により、さまざまな出会いの中で、人とかかわることで得られる喜びを体験できる機会などを拡充し、次代を担う健全な青少年育成に取組み、各少年団体の育成や活動の充実を図ります。また、職業体験の機会を充実し、子どもの頃から職業や勤労に対する意識を育成していきます。

方向性(4) 子どもと親の心とからだの健康づくりの促進

現状と課題

朝食を摂らない等の食習慣の乱れや思春期からのダイエットにみられるような心とからだの健康問題が、子どもたちに生じています。平成28年度調査結果によると、朝食を毎日食べている青少年は、前回の調査結果に比べて変化はありません。

また、平成 26 年度から平成 28 年度の東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果報告書の調査結果によると、小学校低学年の朝食欠食率は低いものの、学齢を重ねるにしたがって、朝食を「毎日食べない」割合と欠食してしまう可能性のある「ときどき食べない」割合が増える傾向にあるため、幼少期からの取組が求められます。

悩みや心配なこととして、小学生や中高生では、勉強や将来と進路が多い割合となっており、将来と進路は学年が上がるにつれて多くなる傾向にあります。一方で、特にないとする意見は、小学生では最も多くなっています。子どもたちの悩みや不安、心配事を気軽に相談できる体制が身近にある環境を整えていく必要があります。

核家族が一般的となり、また共働き家庭が増え、ひとり親家庭、離婚・再婚による再編家庭等により家庭機能が低下し、子育てに不安を抱える親が増えています。こうした中、 身内以外の親しみと信頼をもてる相談相手の存在が子どもにとって必要となっています。

< 朝食の摂取状況 >

	中学生	高校生	大学生等 (その他含む)
合 計	358	86	39
(上段:n、下段:%)	100.0	100.0	100.0
毎日食べている	78.8	81.4	56.4
食べない日もある	11.7	10.5	30.8
あまり食べない	5.9	3.5	2.6
ぜんぜん食べない	2.5	3.5	7.7
無回答	1.1	1.2	2.6

(平成 25 年度ニーズ調査時	時)	調査	ズ	_	=	度	年	25	FV.	(平	
-----------------	----	----	---	---	---	---	---	----	-----	----	--

		中学生高校生		大学生等 (その他含む)
	合 計	333	71	31
	(上段:n、下段:%)	100.0	100.0	100.0
4	毎日食べている	80.2	81.7	67.7
1	食べない日もある	13.5	7.0	22.6
i	あまり食べない	3.0	5.6	3.2
-	ぜんぜん食べない	2.1	4.2	3.2
2	無回答	1.2	1.4	3.2

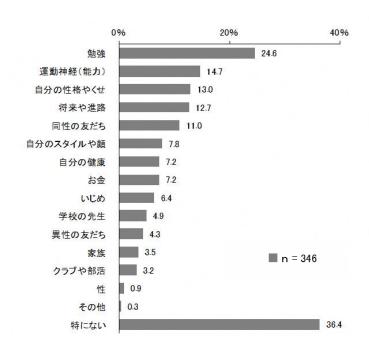
(平成28年度ニーズ調査時)

資料「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」(平成 29 年 2 月) 「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 墨田区青少年の生活等に関する調査集計結果報告書」 (平成 26 年 3 月)

	平成 26 年度			平成 27 年度			平成 28 年度		
	毎日	ときどき	毎日	毎日	ときどき	毎日	毎日	ときどき	毎日
	食べる	食べない	食べない	食べる	食べない	食べない	食べる	食べない	食べない
小学校低学年	93.7%	6.0%	0.3%	94.3%	5.4%	0.4%	93.9%	5.8%	0.3%
小学校高学年	89.6%	9.4%	1.1%	89.9%	9.4%	0.8%	89.3%	9.8%	0.9%
中学生	82.8%	13.9%	3.3%	84.0%	12.8%	3.3%	82.0%	14.6%	3.5%

資料 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果報告書より墨田区の結果を抜粋

< 悩みや心配なこと:小学生 >



< 悩みや心配なこと:中高生、大学生等 >

	中学生	高校生	大学生等 (その他含む)	
合 計	333	71	31	
(上段:n、下段:%)	100.0	100.0	100.0	
勉強	61.3	60.6	41.9	
将来や進路	52.0	70.4	58.1	
運動神経(能力)	31.2	16.9	9.7	
クラブや部活	28.5	15.5	0.0	
自分の性格やくせ	26.4	23.9	22.6	
お金	21.6	31.0	35.5	
自分のスタイルや顔	20.4	26.8	35.5	
同性の友だち	16.2	14.1	3.2	
自分の健康	15.6	7.0	35.5	
家族	9.6	9.9	3.2	
異性の友だち	6.6	11.3	3.2	
学校の先生	2.7	2.8	0.0	
性	1.8	2.8	3.2	
いじめ	1.2	2.8	3.2	
その他	1.5	1.4	3.2	
特にない	18.0	12.7	19.4	
無回答	0.9	1.4	0.0	

資料 「墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書」(平成29年2月)

- 子どもが望ましい食習慣を身につけるため、食の大切さを理解し、食を通じて自らの健康 を管理できるよう食育に取組んでいきます。
- 学齢期や思春期に特有な不安や悩みなどに対する相談を、学校や児童館などの学校内外で気軽に行えるように相談体制を整備し、問題の早期発見と早期対応を行うことで、不登校、いじめ、非行、心の悩み等に関するきめ細かな支援をします。

■ 望まない妊娠や性感染症の防止のための性教育を充実します。また、家庭、学校、 地域が一体となって、喫煙、飲酒、薬物乱用等に対する正しい知識の普及啓発に 取組み、子どもが誘惑に負けることなく、適切に行動できる力を育みます。

現状と課題

妊娠期、出産期、乳幼児期を通じて、親子の心身の健康が確保されるよう支援の充実を図る必要があります。出産や子育てに孤独感や不安・負担を感じる親が依然として多いことから、育児不安の軽減・解消や虐待の未然防止・早期発見に重点を置いた取組が求められます。

- 乳児のいる家庭と社会をつなぐ最初の機会である、乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)について、新生児及び生後120日以内の乳児のいる家庭への訪問率100%をめざします。乳児家庭全戸訪問事業から健診等の母子保健サービスの提供を通じて親子の健康を継続的に見守り、疾病や障害の早期発見・早期対応につなげるとともに、乳幼児期に親子が良好な関係を築くことができるよう支援します。
- 子どもが健康なからだと豊かなこころを育むうえで、乳幼児期は食習慣の基礎や規 則正しい生活リズムをつくる大切な時期であり、家庭がその役割を十分に果たせる よう、関係機関が連携・協力して食育のための活動を広めていきます。
- 日ごろから気軽に相談できる、かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の普及啓発や、休日や平日夜間の小児医療体制に関する周知を進めるとともに、東京都や医師会等との連携により、産科・小児科医療の確保・充実に努めます。